

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の4年目)

1. 研究課題

秦漢法制史料の研究

Study on Legal Texts in the Qin-Han Dynasties

2. 研究代表者氏名

宮宅 潔

MIYAKE, Kiyoshi

3. 研究期間

2021年4月-2026年3月(4年目)

4. 研究目的

2003年に湖南大学岳麓書院が購入した岳麓書院所蔵簡には、秦代の裁判史料や数学書の他、大量の法律条文が含まれる。今のところ秦律令(1)～(3)の三冊が刊行され、そこに収録される簡牘は約1000枚にのぼる。これらの条文は、始皇帝による中国統一以降に書写・編集されたのが確実なものであり、初期中華帝国が成立した当初の、国家統治の設計図ともいべき史料である。これまで、「秦代出土文字史料の研究」において当該史料を会読してきたが、本研究班でもそれを継続して行い、訳注を作成する。これと平行して、睡虎地漢簡の会読も行う予定である。こちらの史料は、2006年に湖北省の睡虎地77号漢墓から発見された簡牘群であり、850枚ほどの漢代の律令のほか、いくつかの公文書を含む。これらの条文は前漢の文帝～景帝頃のもので、岳麓簡との間には半世紀程度の時代差がある。この史料が全面公開されたなら、本格的な会読を開始し、秦・漢の法律史料を比較することによって、初期帝国の変容を跡づけることを目指したい。

The Yuelu Qin strips, which were purchased by the Yuelu Academy of Hunan University in 2003, contain a large volume of texts of Qin statutes and ordinances, together with records of exemplary criminal cases and writings on mathematical procedures. To date, three volumes of Qin statutes and ordinances have been published, including some 1,000 bamboo strips. Almost certainly, these texts were written and edited after unification by the First Emperor. Thus, these laws could be said to be the foundational principles of the government at the very beginning of the early Chinese empire. In this project, taking on board the findings of an earlier project, "Study on the Excavated Manuscripts of the Qin Dynasty", we will read these texts and progressively publish annotated translations. In addition, it is planned to read the Shuihudi Han strips, which were excavated from Tomb No.77 in Shuihudi, Hubei Province,

in 2006. Around 850 strips of Han statutes and ordinances, as well as several official documents, are included therein. These manuscripts are dated in the reign of Han Emperors Wen and Jing; there is almost a half-century time difference from the Yuelu Qin strips. Following publication of Shuihudi, we will start reading it and analyzing the transformation of the early Chinese empire by comparing the Han legal texts against those of the Qin Dynasty.

5. 本年度の研究実施状況

まず、前年度に引き続き岳麓書院所蔵簡《秦律令（貳）》の会読を進め、第128簡から第189簡までの62簡を読了した。そのなかには、戦死者の棺の故郷への運搬に関する規定や、軍需物資の調達をめぐる不正への科罰規定など、当時の政治・社会状況と関わる条文が含まれ、これらの重要な条文に十分考証を加えたうえで、訳注を作成した。また、前年度から今年度初めに読了した《秦律令（貳）》73～137簡の訳注原稿を整理し、本年度刊行の『東方学報』に寄稿し、掲載された。里耶秦簡〔壹〕の会読もこれと平行して行い、これについては関係論文を中国・武漢大学のHP「簡帛網」に投稿する予定である。あわせて、この研究班を開催母体として、中国・武漢大学、韓国・ソウル大学と共同での研究会を2回（対面1回、オンライン1回）開催し、戦国秦漢時代の簡牘史料関連の研究報告・討議を行った。

6. 本年度の研究実施内容

2024.4.5	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕128-137	発表者	杉村伸二	福岡教育大学
2024.4.12	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕128-137	発表者	杉村伸二	福岡教育大学
2024.4.19	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕128-137	発表者	杉村伸二	福岡教育大学
2024.4.26	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕128-137	発表者	杉村伸二	福岡教育大学
2024.5.10	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕138-145	発表者	李晟	岡山大学
2024.5.24	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕138-145	発表者	李晟	岡山大学
2024.5.31	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕138-145	発表者	李晟	岡山大学
2024.6.7	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕138-145	発表者	李晟	岡山大学
2024.6.14	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕138-145	発表者	李晟	岡山大学
2024.6.21	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕146-154	発表者	劉潔	岡山大学
2024.6.28	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕146-154	発表者	劉潔	岡山大学
2024.7.5	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕146-154	発表者	劉潔	岡山大学
2024.7.12	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕146-154	発表者	劉潔	岡山大学
2024.7.19	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕146-154	発表者	劉潔	岡山大学
2024.7.26	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕155-164	発表者	佐藤達郎	関西学院大学
2024.9.6	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕155-164	発表者	佐藤達郎	関西学院大学
2024.9.13	里耶秦簡会読	里耶秦簡⑧1392～⑧1436	発表者	内山峻	明治大学
2024.9.20	岳麓簡会読	岳麓〔伍〕155-164	発表者	佐藤達郎	関西学院大学

2024.9.27 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1437～⑧1450 発表者 高田菜々子 明治大学
2024.10.4 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕155-164 発表者 佐藤達郎 関西学院大学
2024.10.11 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1437～⑧1450 発表者 高田菜々子 明治大学
2024.10.18 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕165-172 発表者 鷹取祐司 立命館大学
2024.11.1 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1451～⑧1469 発表者 斎藤賢 東京大学
2024.11.8 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕165-172 発表者 鷹取祐司 立命館大学
2024.11.15 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1470～⑧1498 発表者 魏星 京都大学
2024.11.22 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕165-172 発表者 鷹取祐司 立命館大学
2024.11.29 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1451～⑧1469 発表者 斎藤賢 東京大学
2024.12.6 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕173-175 発表者 宮宅潔
2024.12.13 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1470～⑧1498 発表者 魏星 京都大学
2024.12.20 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕176-180 発表者 安永知晃 関西学院大学
2025.1.10 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1499～⑧1516 発表者 杉村伸二 福岡教育大学
2025.1.17 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕176-180 発表者 安永知晃 関西学院大学
2025.1.24 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1499～⑧1516 発表者 杉村伸二 福岡教育大学
2025.1.31 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕181-190 発表者 目黒杏子 京都府立大学
2025.2.7 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1499～⑧1516 発表者 杉村伸二 福岡教育大学
2025.2.14 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕181-190 発表者 目黒杏子 京都府立大学
2025.2.21 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1517～⑧1523 発表者 李晟 岡山大学
2025.2.28 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕181-190 発表者 目黒杏子 京都府立大学
2025.3.7 里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧1517～⑧1523 発表者 李晟 岡山大学
2025.3.14 岳麓簡会読 岳麓〔伍〕181-190 発表者 目黒杏子 京都府立大学

7. 共同研究会に関連した公表実績

国際シンポジウム「第1回戦国秦漢簡牘研究国際論壇」、2024年5月17-18日、韓国・ソウル大学

日中韓三大学共同研究会「戦国秦漢簡牘在線研読会」、2024年12月10日、オンライン

8. 研究班員

所内

宮宅潔、古勝隆一、野原将揮、藤井律之、陳捷

学内

西真輝(文学研究科)、林怡冰(文学研究科)、魏星(人間環境学研究科)、尹嘉越(人間環境学研究科)

学外

土口史記(岡山大学)、杉村伸二(福岡教育大学)、斎藤賢(東京大学)、劉聡(岡山大学)、李晟

(岡山大学)、劉潔(岡山大学)、目黒杏子(京都府立大学)、角谷常子(龍谷大学)、鷹取祐司(立命館大学)、佐藤達郎(関西学院大学)、太田麻衣子(国士舘大学)、宗周太郎(大谷大学)、畑野吉則(立命館大学)、安永知晃(関西学院大学)、内山峻(明治大学)、高田菜々子(明治大学)、金秉駿(韓国・ソウル大学)、楊長玉(中国・雲南民族大学)、曹天江(中国・中央民族大学)、章瀟逸(中国・武漢大学)、飯田祥子(公益財団法人古代学協会)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	5 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	164 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	2	4 (1)	3 (1)	4 (1)	4 (1)	2 (1)	137 (38)	101 (38)	137 (38)	137 (38)	76 (38)
国立大学 (内女性)	3	6 (1)	3 (1)	4 (1)	4 (1)	3 (1)	231 (39)	118 (39)	155 (39)	155 (39)	117 (39)
公立大学 (内女性)	1	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	6	9 (3)	0 (0)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	349 (128)	0 (0)	77 (38)	77 (38)	77 (38)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	1	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	4	4 (2)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	0 (0)	124 (71)	124 (71)	102 (71)	72 (34)	0 (0)
その他 ※ (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18	30 (9)	11 (4)	13 (5)	12 (4)	7 (3)	1082 (353)	348 (148)	471 (186)	441 (149)	270 (115)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数 0 とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	東方学報京都 99 冊	1	2024.12	秦代県尉小考 その職掌よりみた占領統治の実態	宮宅潔
2	東方学報京都 99 冊	1	2024.12	岳麓書院所蔵簡《秦律令(貳)》訳注稿 その(二)	「秦漢法制史料の研究」班

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

なし

12. 博士学位を取得した学生の数

1 (学内1)

13. 次年度の研究実施計画

引き続き《秦律令(貳)》の会読を進め、その成果の一部を『東方学報』誌上に発表する予定である。あわせて、里耶秦簡(壹)の会読も継続して行う。これと同時に、武漢大・ソウル大との共催でオンラインの研究会も継続して開催し、研究班での討議内容について、国外の研究者とも意見を交換する。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

会読の成果を「岳麓書院所蔵簡《秦律令（貳）》譯注稿 その（三）」として『東方学報』誌上に発表する。武漢大・ソウル大との共同研究会については、中国・武漢大学で5月に対面での研究会を開催予定であり、その準備を進めている。